

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

生活・健康系コース(保健体  
育) / 吉本 佐雅子

### ■平成25年度の目標に対する自己点検・評価

#### I. 学長の定める重点目標

##### I-1. 教員養成大学教員としての授業実践

中央教育審議会は、「教職生活の全体を通じた教員の資質能力の総合的な向上方策について」答申したが(平成24年8月28日)、その中で「教員を高度専門職業人として明確に位置付ける」と提言している。この答申の考え方を実現するため、教員養成大学に籍を置く教員として、将来、教師を目指す学生に対してどのような授業実践を展開すればよいか。あなたの取り組みを、①授業内容、②授業方法、③成績評価の三つの観点から示してほしい。

#### 1. 目標・計画

学習態度の向上を重点として授業を行うことにする。近年、学生の学習態度が全体的に落ちてきていることを痛感している。教師を目指す学生にとって、まずは理解し、覚えるといった基本的な学習態度を身に付かせることが不可欠であり、そのためには、主体的に考えさせるグループ学習などの授業方法以外に、強制的に授業内容を理解させ、覚えさせるという手段が必要であると考えた。したがって、授業実践は以下のように展開する。

- ①授業内容:保健分野の教員採用試験を見据えた内容を盛り込む。
- ②授業方法:なんとなく理解できたという程度ではなく、自分が学習したことを整理して、人に説明、授業できるような能力を育てる。そのため、授業で学習した後、今度は学生が授業者になって学習したことについて授業を行わせる。また、学習内容を整理する力をつけるため、ノートをとらせる。したがって、授業はプリント配布と並行して板書で行う。
- ③学習したことを整理して理解しているか、また、覚えなければならないことを正確に覚えようとしたかなどについて評価する。そのため、具体的には授業ノートの点検、穴埋め式筆記試験によって評価する。

#### 2. 点検・評価

- ①授業内容:保健分野の教員採用試験を見据えた内容を盛り込んだ。
  - ④学生の授業中の態度の改善に努めた。
  - ②授業はプリント配布と並行して板書で行い、学習内容を整理する力をつけるため、ノートをとらせた。
  - ③評価は、論文形式の問題とともに、穴埋め式筆記試験によって行った。
- 以上の授業での取り組みを行ったが、その評価として、穴埋め式筆記試験を行った結果、まずは「理解して覚える」という基本的学習態度を向上させる事が出来たと考えた。

## Ⅱ. 分野別

### Ⅱ－1. 教育・学生生活支援

#### 1. 目標・計画

- 指導学生(大学院長期履修生)に対して教員採用試験の準備を指導する。
- 健康に関する複数の授業を担当しているが、受講者の学年、選択必須にばらつきがある。これら授業に一貫性を持たせるよう、授業内容を工夫する。
- 学生が気軽に進路、悩みなどの相談に来られるよう、また、学生の様子を把握できるよう、日常的に学生とのコミュニケーションを図る。
- 博士課程学生の学位論文作成の指導を行う。

#### 2. 点検・評価

- 指導学生(大学院長期履修生)2名に対して教員採用試験の準備を指導した。残念ながら今年度の教員採用は不合格であったが、臨時教員に就く事が出来た。
- 長期履修生2名の修士論文作成の指導に時間をかけ、滞りなく修了させることができた。
- 健康に関する複数の授業を担当しているが、大学院授業では特に受講者の背景を考慮して、授業内容を工夫しながら講義を進めた。
- 博士課程学生の学位論文作成の指導を行い、学校保健学会で発表させた。

### Ⅱ－2. 研究

#### 1. 目標・計画

- これまでに4回行った全国規模の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する高校生調査について分析し、その成果を論文として投稿する。
- 科研(B)の高校生における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する定点的調査を進める。

#### 2. 点検・評価

- 前年度行った全国規模の喫煙・飲酒・薬物乱用に関する高校生調査について分析し、その成果を学会で発表した。
- 科研(B)の高校生における喫煙・飲酒・薬物乱用に関する定点的調査を計画通り実施、完了できた。

## Ⅱ－3. 大学運営

### 1. 目標・計画

- 地域連携センター所長を併任
- 衛生委員会, 学生相談室委員会の委員として業務を遂行する。
- 大学院生確保のための広報活動を行う。

### 2. 点検・評価

- 地域連携センター所長, 衛生委員会, 学生相談室委員会の委員として業務を遂行した。
- 大学院生確保のため, 他大学の知り合いの教員に声をかけた。

## Ⅱ－4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- 附属学校との懇談会, 研究会, 実地教育指導に積極的に参加し, 附属・大学の連携体制が必要な課題を見つける。
- 性教育, 薬物乱用防止教育, 生活習慣病などに関する地域の研修会, 会議に積極的に参加する。

### 2. 点検・評価

- 附属学校との研究会, 実地教育指導に積極的に参加した。
- 徳島県教育委員会の性に関わる教育の委員会の委員になっている。
- 薬物乱用防止教育に関わるテーマをアドバイザー派遣制度に登録している。

### Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)

○地域連携センター所長の職務として、本学の社会連携に関わる多種のプロジェクト、委員会等の委員として参加した。

○「高校生の薬物乱用の調査」は全国規模で行っており、各都道府県の教育委員会に本調査の周知をおこなった。これによって、現職教員の派遣に際して、本テーマを行っている本学が派遣大学の選択肢となっていると考えている。